

(様式2)

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

(愛媛県立土居高等学校)

学校番号 (3)

評 価 実 施 日		令和 8 年 2 月 13 日 (金)	
委員	氏 名	所 属 等	備 考
	合田 泰之	四国中央市立土居中学校 校長	継続
	藤田 喜一郎	四国中央市立土居文化会館	継続
	西山 高弘	伊予銀行土居支店 支店長	新規
	阪中 洋	福助工業株式会社 人事部長	継続
	烏谷 康恵	千足神社 宮司	新規
	古味 あさみ	土居高等学校 P T A 会長	新規

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
学力・進路指導 ・ I C T を活用した授業改善を継続しており、授業評価アンケートでは、「理解しやすい、」と回答した生徒が1年90%、2年98%、3年95%と高い結果が得られた。 ・スタディサプリの導入により家庭学習の質向上を図っているが、学習時間の定着は以前として課題である。家庭学習の定着については、中学校でも課題であり、現在市内の小学校と協議会を持ち、学力の手着について連携して取り組んでいる。 ・進路指導においては、今年度国公立大学に3名が合格し、私立大学、・短気大学・専門学校・就職の各方面で安定した実績が見られた。特に就職は地元企業からの信頼が厚く、地域に根差したキャリア形成が促進されている。一方で、公務員試験（自衛官以外）の支援体制の強化が今後の課題である。	・学校全体で I C T を活用した授業がかなり浸透してきている。お互いに切磋琢磨することで改善されてきているので、来年度も引き続き一人一台端末の効果的な活用方法について検討していきたい。 ・スタディサプリの導入により家庭で動画を見て課題に取り組むことができるようになった。家庭学習に取り入れるようにしていきたい。 ・進学、就職ともに丁寧な個別指導による効果が見られたので、継続したい。今後は公務員試験対策に力を入れたい。
生徒指導・安全教育 ・出席率は96%と目標値にあと一歩であり、特定生徒に休みが集中する傾向もみられた。 ・身だしなみ指導の合格率は93%で、年度後半に大きく改善し、2月には98%に達した。 ・交通安全面では自転車事故等が3件発生し、事故時の対応（連絡先の交換など）の理解不足が課題として浮き上がった。 ・校則検討委員会により、生徒主体での校則改善が進められており、生徒が互いに声を掛け合う姿も見られるなど、自立性が伸長している。	・地元中学校では校則検討委員会での検討により、男女同じ髪型、長さとなっている。今後そのような意識を持った生徒、保護者が入学してくることが考えられる。その点に配慮しながら、生徒が過ごしやすいように受け入れていくなど、ジェンダーの対応を考えていきたい。 ・警察や保護者と連携をしながら、全ての生徒が安全に登下校できる対策を進めていきたい。年度当初は交通事故を含めて特に重点的に指導をしていきたい。
豊かな人間性・個性の伸長 ・持久走などの授業・行事において、生徒同士が賞賛し合い、努力を認め合う温かい雰囲気が形成されている。 ・多くの生徒が実業系資格取得に挑戦し、特に食品衛生責任者口では35名が合格し、地域イベントでの試食提供など実践的な活動につながった。 ・「土居高校は生徒が安定して成長できる場であり、特性のある生徒にも丁寧な支援が行われている」と高い評価が寄せられた。	・これから落ち着いた環境の中で、一人一人に寄り添った教育活動を丁寧に行っていく。 ・実業系資格取得は生徒の自信につながるだけでなく、就職等でもメリットがある。今後も積極的な受講を呼び掛け、受講人数を確保していきたい。 ・今年度から通級指導がはじまり、一層手厚い指導が可能になった。教育課程の見直しも検討しているところである。今後も生徒の実情に合った指導をしていきたい。
地域との連携・学校の魅力化 ・公式Instagram・Facebookを新設し、従来のホームページに加えて情報発信を強化した。 ・デジタルサイネージでの動画配信も更新し、学校の魅力を視覚的に発信している。 ・地域団体（ライオンズクラブ、未来塾他）との協同や、運動会・文化祭・パン販売など地域交流の機会も増え、学校活動の認知度が向上した。 ・小学生を対象とした「自転車交通安全教室」は高い評価を得ており、入学前の安心感につながっている。	・学校の魅力について、公式ホームページでの発信に加え、今年度から新設したInstagram、Facebookの活用を積極的に行い、より素早く、正しい情報が伝わるよう努めたい。 ・中学校は部活動の地域移行の過渡期で不安定な状況である。本校の陸上競技部は魅Can部として土居中学校との合同練習を実施している。このような場を積極的に活用していただき、お互いに切磋琢磨しながら活動を充実させていきたい。
現職教育・業務改善 ・教職員の時間外勤務が増加し、負担感が高まっている。定数減により業務量が増えた背景もあり、休養室整備や作業スペースの確保など働き方改革に向けた環境整備を進めている。 ・ I C T 支援員の活用により授業および業務効率は向上しているが、以前として紙媒体が必要な業務も多く、委員からは「簡素化できる部分の見直し」に関する提案をいただいた。 ・スクールポリシーに基づく生徒の成長について、教職員の76%が実感しているものの、更なる共有と共通理解の深化が求められる。	・生徒数の減少による教職員数の減少もあり、時間外労働時間の減少にはなかなかつながっていない。可能な部分での業務の簡素化、職場環境の整備、管理職による積極的な声掛け等を引き続き行いたい。 ・テレワークの活用は更なる余地があるので、積極的な活用を呼び掛けたい。 ・ I C T 支援員の存在は大変大きい。継続してほしい。
その他・全般 ・生徒・保護者による学校評価アンケートでは、ほぼ全ての項目で80%以上の肯定的評価が得られ、学校全体として良好な教育活動が進められている。 ・一方で、部活動の活性化、家庭学習の定着、生徒数の減少、教職員の業務負担など、継続的に取り組むべき課題も明確となった。 ・土居高校の「落ち着いた雰囲気」「生徒の良さが光る教育」が高く評価されている。学校長は、今後も本校の強みを地域に正しく発信し、魅力化を進めていく方針を示した。	・現在、大変落ち着いた教育活動が行われており、地域の方からも一定の評価を得ている。この情報を一層多くの方に、早い段階から知っていただけるような活動を進めていきたい。 ・部活動の活性化、家庭学習の定着、教職員の業務負担軽減などの課題については、小さな改善から一つずつ、継続的に取り組んでいきたい。